

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Lack of concern about body image and health during pregnancy linked to excessive gestational weight gain and small-for-gestational-age deliveries: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

ボディイメージ及び健康への無関心と妊婦の体重増加及び出生児のSGA (small-for-gestational-age)との関連: 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

ユニットセンター(UC)等名: 高知

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC Pregnancy and Childbirth

年: 2021 DOI: 10.1186/s12884-021-03827-0

筆頭著者名: Naw Awn J-P.

所属 UC 名: 高知ユニットセンター

目的:

妊娠中の体重増加を抑制する理由を理解することで、社会的および医学的にリスクの高い妊婦に健康指導をすることが可能となる。本研究の目的は、①「体重増加を抑制する理由が共通するグループが存在する」という仮説に基づきその特定を行うこと、②特定したグループの体重増加と生まれた子どもの体格との関連を検討する。

方法:

エコチル調査に登録した 104,065 人から、妊娠中の体重増加を抑制する理由の回答がない(n=5,061)、除外基準に該当(n=6,465)を除く、92,539 組の妊婦とその子どもを対象とした。自己記述式の質問紙から得られた、体重増加を抑制する理由について、latent class analysis (潜在クラス分析)を用いて、グループの特定を行った。加えて多項ロジスティック解析を用い、グループ間での体重増加及び SGA (在胎期間相当の体格よりもかなり小さく生まれること)のリスクを推定した。

結果:

latent class analysis で分類されたグループの妊婦の特徴として、標準となるグループ 1 と比較して、グループ 2 は若く、妊娠前に低体重、未婚、初産、妊娠前に減量した経験があり、慢性疾患がない傾向を示し、グループ 3 は低学歴、未婚、経産、喫煙者、妊娠前のやせと帝王切開の経験が多いという傾向を示した。交絡因子による調整前後のモデルで一貫した結果としては、グループ 1 と比較して、グループ 2 では妊娠中の体重増加不足のリスクが有意に低く、グループ 3 では、妊娠中の過剰な体重増加および生まれた子どもの SGA のリスクが有意に高かった。

考察(研究の限界を含める):

妊婦において体型や健康に対する意識が低いグループと、それらのグループの特徴、妊娠中の体重増加、生まれた子どもの体格に関連する要因を明らかにした初めての研究である。質問票が自己記述式あり、質問への回答を得た妊婦のみを対象としており、妊娠前の質問については過小評価、過大評価が生じた可能性などの研究の限界はある。

結論:

目的のうち①は妊娠中の体重増加を抑制する理由に基づきグループを同定することができた。②は、体型や健康に対する意識が低いという特徴を有するグループ 3 (低学歴、未婚、経産、喫煙者、妊娠前のやせなど)に分類される妊婦が、妊娠中の過剰な体重増加及び生まれた子どもの SGA の複合的なリスクがある可能性が示唆された。